

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 障がい児保育実践演習	授業の種類 (講義・ 演習 ・実習)	授業担当者 板垣 寛	当該科目に関する 実務経験 臨床心理士 児童相談所相談員 児童発達支援センター 相談員
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ・ 障がい児への理解をより深めるとともに、障がい児保育の支援・援助の具体的な知識を習得し、実践力を培う。 [授業全体の内容の概要] ・ 障がい児支援施設や児童発達支援センターなどの施設での観察を通して、実際の支援の在り方や様々な場面での支援の方法を考察・検討する。また、個別支援計画の具体的な作成方法を知り、現場での実践力をより高める。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・ 個別支援計画が作成できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1～8. 児童発達支援施設等の観察 9. 観察の振り返り 10. 観察からの事例検討① 11. 観察からの事例検討② 12. 観察からの事例検討③ 13. 個別の支援計画作成① 14. 個別の支援計画作成② 15. 期末試験 ※観察する施設について 保育実習Ⅰ (施設)・Ⅲの承諾を頂いている施設に依頼する。			
[使用テキスト・参考文献] ・ 演習・保育と障害のある子ども (株式会社みらい) ・ 障がい児保育の基本と課題 (学文社)			

[成績評価の方法と基準]

教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

- 考查点(75%)
 - 到達目標の修得状況を測るために、筆記及び実技試験により期末考查を実施する。
- 平常点(25%)
 - 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。
 - 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。